

本区の小・中・義務教育学校は8月25日（金）から授業が再開されました。俳句授業への俳句講師の派遣も28日（月）から始まりました。

28日に訪問した学校では夏休み前に詠んだ「夏の俳句」が廊下に掲示されていました。十七音に加え挿絵もあり、さらに情景が迫ってきていました。さらに、掲示板の空きスペースに折り紙の飾りもあり、子どもたちが俳句の掲示を楽しんでいるように思えました。



教室には、水筒やプールバッグが並び、「立秋」を過ぎても夏らしさ満載の様子です。



夏休み中、4年ぶりに開催された「お祭り」や「盆踊り」に参加した子どもたちが多く見られました。「五七五」を意識して指を折りながら言葉探しをしている子たちを見ると思わず笑みがこぼれてしまいました。その子の琴線に触れるのはどのような言葉なのか、試行錯誤して話しかけています。

◇『「夏祭り」から連想されるものは？』

…焼きそば・チョコバナナ・杏飴・ラムネ・射的・金魚すくい・ヨーヨーつり・提灯・御神輿・法被等

◇『「盆踊り」から連想されるものは？』

…浴衣・甚平・ダンシングヒーロー・団扇・腕・腰・おしり等

◇『「花火」は三音。ほかの言い方もあります』と伝え、「揚げ花火」「遠花火」「手花火○」「庭花火」などの五音の言葉も紹介しました。「どこで、だれと、見たの?」「踊ったときの周りの様子は?」等の問いかけに子どもたちは一生懸命、記憶を掘り起こしていました。講師が『ぼくだけがはみだしているぼんおどり』（金子嵩さん）を紹介すると「わかるわかる」「みんな足を右に出しているのに、自分は左に出しちゃった」と盛り上がりました。



以下、児童作「夏祭り」の俳句を紹介します。

『五丁目でカレー売ってる夏祭り』 『チョコバナナほんのりあまい夏祭り』
『宿題が終わらず行けない夏祭り』 『あんずあめ髪にくっつく夏祭り』